



Mitsui V-Net

Mitsui Volunteer Network Center

三井ボランティアネットワーク事業団

ニュースレター Vol.43

2010年1月1日発行

人の力を信じて

埼玉大学国際交流センター
学生交流・教育部門長 中本 進一

私が「日本に来日する留学生の支援ができれば…」と思い始めたのは、米国留学中の1980年代でした。その時に出会った現地大学の留学生アドバイザーの素晴らしい学生対応を目の当たりにし、『大学の顔』として活躍されている姿から、「日本に留学する者の立場だったらどうだろう。日本は留学生にとって魅力的な国だろうか?」とよく考えたものでした。



留学生 Mahtab U. ahmmmed さんと

時は流れ、1995年1月17日、生まれ故郷でもある神戸を大震災が襲いました。その時、実家への避難のために移動中だった私たち夫婦は、瓦礫に埋まった神戸の真ん中で、タイからある観光グループのリーダーに遭遇しました。「どうしたのか」と尋ねると、情報不足からか、どう行動するべきか悩んでいるところのことでした。私はその時に「滞在先のホテルの指示・情報を待ちなさい。安心なさい、あなた方は間違いなく安全に帰国できます。メンバーの方々にもあなたがリーダーとして安心を与えてあげてください。」とアドバイスしたことが、以前から燻っていた私のアドバイザー魂に火がついたのかもしれませんが。

そして、私は、今改めて「日本は留学生にとって魅力的な国なのか」という問いかけをしようと思います。

日本政府は「日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界との間のヒト、モノ、カネ、情報の流れを拡大する『グローバル戦略』を展開する一環として、2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す(*1)」とした、いわゆる『留

学生30万人計画』を打ち出しました。勿論、政策として打ち出したことの意義は大きいと思います。特に日本が世界に開かれた国になることは国際社会の一員としての役割を果たすという意味において重要でしょう。

しかし、決して忘れてならないのは、『留学』という行為の根底にあるものです。留学とは、単に一時期を外国で過ごし、修学することではありません。母国に残してきた家族や友人の理解や経済的協力が基盤にあり、さらに日本留学効果に対する結論を求めるものでもあります。つまり、「日本に留学して意義があった」「留学したおかげで、今の生活が築けた」といったことにつきます。

そのために重要なものは「教育の質」と「人の力」です。前者は大学等、高等教育機関が担うこととなります。では後者はどうでしょう。大学では教えることのできない、住民としての価値観の共有や、人との付き合い方など、留学生たちには学ばなければならないことが多いと言えるでしょう。

一方、日本に来て、偏見や差別を経験したり、就職や人生設計もままならず、アパート入居も拒否されたり、家族(子息)の教育も含め、未来の見えないような国であれば、誰が日本を留学先にするでしょうか。

換言すれば、我々日本人が市民レベルで「誇れる国づくり」を行うことこそが日本を魅力ある留学先にするのではないのでしょうか。その意味で本学が三井V-Netのみなさんとともに立ち上げたVOICE (Volunteer for Intercultural Exchange) プログラムは意義があります。社会的な束縛(教員―学生、雇用主―雇用人等)から離れ、留学生が1対1で日本人と接触するという貴重な機会だからです。三井V-Netのみなさんには、留学生教育の一端と、日本人社会の国際化へのご尽力を期待します。私もみなさんとともに「誇れる国づくり」を目指したいと思います。

(*1:「留学生30万人計画」骨子 平成20年7月29日)

皆様もボランティア活動に参加しませんか

三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ各社の協力を得て、1996年に設立され、社会全般のシニア層に対してボランティア活動を紹介・仲介・斡旋するとともに、三井V-Net独自のボランティア活動を企画・立案・実行することによって、シニアが豊かで健康な生きがいを感じられるよう支援を行い、三井グループ全体の社会貢献活動に資することを目的としています。

ボランティア活動会員登録に関しましては入会金および年会費は不要です。
活動の詳細ならびにボランティア活動会員登録票は、以下ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>

活動会員登録票は本部または支部までFAXにてご送付ください。
本 部 (東京) TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035
関西支部 (大阪) TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681
中国支部 (広島) TEL: 082-2222-5101 FAX: 082-222-5101



金融機関の社会貢献

中島 雅樹 (三井住友銀行 現役)

2007年11月、三井ボランティアネットワーク事業団では、当事業団の運営業務遂行を円滑にすることを目的とし、それまでの連絡責任者会議に代わり、運営委員会を設置致しました。2008年2月を第1回とし、年3、4回委員会が開催されております。私は運営委員会初代委員長を拝命し、2009年3月まで務めさせていただきました。運営委員会では日々変化する社会情勢・経済情勢の中で当事業団のあるべき姿を模索し、議論を重ねております。

さて、私の所属します三井住友銀行でも社会貢献活動には力を入れております。当行は金融機関としての高い公共性を認識し、本業での活動を通じて社会の発展へ貢献することが重要と考えます。社会貢献活動を積極的に行うため、「福祉活動」「地域・国際社会」「環境活動」「文化・芸術教育」の4つの分野を社会貢献の柱とし、企業で活動を企画・実施するとともに社員のボランティア活動を支援しています。

その一つの事例として、年1回開催しているチャリティコンサートが挙げられます。

このコンサートは当行や関連会社の社員がすべて手作り、演奏者から運営スタッフまですべて身内のボランティアが行っています。お客さまを無料で招待し、募金活動やグッズの販売等も行い、募金や売上金の全額を世界で震災に傷ついた子どもたちを支援する団体に寄付させていただいております。2009年で4回目となったこの取り組みは年々協力者も増え、今では当行の社会貢献活動としてなくてはならないものとなっています。

今後も当行はCSR活動の一環として、社会貢献活動に注力していきたいと思っております。



チャリティコンサート出演者・スタッフの方々

「留学生ホームステイ受け入れ」体験記

能登 勝子 (三井生命 OG)



能登さん(右)とグエンさん

私は、2009年三井V-Netに登録し東大柏部会に所属しております。参加間もない時期に中国の留学生との交流をスタートすることができました。この学生さんは日本で5年以上生活されており、日本語その他あまりお手伝いすることもなさそうですが、何か困った時のよき聞き役・相談相手になれたらと願っております。

さて、今回は2009年10月に体験させていただいた「留学生ホームステイ受け入れ」について報告いたします。

ベトナムのグエンさんは、交換留学生として東京大学新領域創成科学研究科に入学され、2年間日本で学ばれる修士課程の25歳の女性です。今回のホームステイの趣旨は、これから生活する住まいが見つかるまでのサポートでした。

グエンさんは、10年ぶりの前評判の台風とともに日本にやってきました。小柄な身体にたくさんの荷物を携えちょっと不安気でしたが、事前にメールや写真の交換をしていたので、すぐに親しく挨拶を交わすことができました。

わが家に落ち着く間もなく、大学に向いて部屋探し、翌日から住民登録、銀行口座の開設などチュータの案内でこなしておりました。必需品の携帯電話も取得しました。しかし、住まいの方は、本人がシェアルームを希望したので、見つかるのが少し遅れ、当初2日程の滞在予定が4日になりました。

グエンさんは、しっかりした価値観を持ち、パワーを内に秘めた素敵な女性で、ご両親の教育理念がわかるように思いました。私自身もこの4日間は本来の活力が少し戻った感じで楽しい日々でした。言葉の壁もありましたが、日本語を紹介することで乗り切りました。食の細かいグエンさんに一番に覚えてもらったのは、簡単な挨拶と「おいしい」「おなかいっぱい」でした。

グエンさん、お食事もしっかり、悔いのないキャンパスライフを、そして日本もたくさん楽しんでくださいね。2年間応援しています。

5年振りのREUNION

軽部 忠 (三井物産 OB)

この夏思いがけない出会いがあった。横浜国大留学生との1対1交流で最初のパートナーであったChristina Laskと5年ぶりに再会できたのである。彼女との交流は2003年10月から約10か月続いた。彼女は帰国後、米国San Diego





人と人のまんなかに。

大学に復学、卒業の2005年にGeneral Dynamics社に就職、そしてこの夏出張と休暇で来日したのである。

彼女は父親の勤務地横須賀で生まれ、一度帰国した後、都合約12年基地内で高校までの学校生活を経験した。日本についての知識は勿論持っていたが、日本語は余り話せず、彼女の片言の日本語と私の下手な英語での交流で、まさに異文化交流となった。ただ今回、彼女は結構上手に日本語を話し、交流時英語で応じたことが気恥かしい気がした。

聞けば大学卒業後San Diegoで日本からの留学生（横浜国大生ではなかったが）なつみさんとConversation Partnerとして交流があり、この機会に彼女の日本語が上達したようであった。そして今回の出張も日本語が話せる彼女に役目がまわってきたらしく、留学生活での日本語、日本文化の会得が生かされたとのことでした。

彼女は私にとり何かと印象深い学生であった。好奇心旺盛で日本各地への旅行、日本食を含めた日本文化の吸収に熱心であった。横浜近辺での食べ歩き、八王子森林植物園へのGW過ぎの遅い桜花見、家内を動員しての2泊3日の京都旅行など。また日本食は殆ど全て食べられ、今回の再会では二度彼女の好物であるてんぷらと寿司、それにあんみつを家内と共にご馳走できた。

留学から帰国後も折にふれE-Mail交信、Xmas Cardと年賀状の交換、彼女から卒業partyへのInvitation Letterを送ってくれるなど交流を続けてきた。そしてこの夏



軽部夫妻とChristinaさん(中央)

5年ぶりの再会となったのである。1対1交流も6年間、6人と続けているが、こうした思いがけない解通があるとやりがいと継続への意欲が増すのである。

私のボランティア活動

森田 晃弘 (三越 OB)

私は在職中より、定年になり時間に余裕が出来たら今までお世話になった社会に、何か少しでもお返しをしたいと思っていました。

東京大学医学部附属病院（東大病院）でボランティア



森田さん(左端)

活動員を募集していることを知り応募いたしました。当時、ボランティアとはどのようなことをするのかも知らず、もし自分に合わなければ止めても良いと、軽い気持ちで始めました。活動内容は外来棟玄関にて、患者様のご案内をするガイドが中心です。人と接することなので、百貨店勤務での経験が何か役にたつかも知れないと思いました。病院に行ってもわかったことですが、本当に多くの方が通院されていることです。東大病院には1日に3,500人～4,000人位の方が予約され来院されます。この他に新規の患者様

及び当日予約のない方が200人～250人位来院されます。この患者様を私達ガイドボランティアが各診療場所、検査の場所（採血、採尿、レントゲン等）へのご案内、新規の患者様には診療申込書の書き方、受付窓口のご案内、受診終了の患者様には会計窓口のご案内等多岐に亘ります。この他に患者様の簡単な介助（車イスに乗った患者様の移動）目のご不自由な方の誘導などもあります。

東大病院は広くて、初めて来院された方や、1回や2回来院されただけでは迷ってしまいます。その後「院内学級生徒の送迎」（こだま学級）、「患者図書貸し出し」（にこにこ文庫）、小児病棟での「こどもの遊び相手」など少しずつ活動範囲も広がりました。

活動時間は（土曜日、日曜日、祭日は休み）①8時30分～11時30分、②9時30分～12時30分、③12時～15時の3班編成で活動曜日、活動時間は自己申告なので、活動がしやすいと思います。私は原則、毎週木曜日の8時30分～11時30分外来棟玄関で活動しています。活動を始めて、健康が第一であることが良くわかりました。そして病院に行くのなら治療ではなくボランティア活動に行きたいと思います。

ボランティア活動について

末富 潔 (三幸物流 現役)



三井V-Netに参加させて頂くことになりました。まだ日時も浅い未熟者ではございますが、ボランティア活動に際しての経験を私なりに受け止めたことなどを述べさせていただきます。

あれはある夏の暑い一日でした。大磯のエリザベスサンダースホーム（ESH）で、子供達との木工作業（虫カゴ作り）に参加いたしました。子供達は心から私達を歓迎してくれ楽しくたくさん語り合いを持つことができ、作業を終了することができました。

最後に子供達から丁寧にお礼をいわれました。家庭での何らかの事情でESHで学んでいる子供達ですが明るく、謙虚で前向きな姿勢に私は感銘を受けました。

ボランティアの概念とは、自発性、奉仕性、貢献性等があげられますが、受ける側だけが助かるのではなく、する側にとっても精神的充実や自己表現が得られるということを教えられました。

今までの私はボランティアの「自由意志」の部分だけに甘え、組織によりかかり、自らの自発性、責任性が希薄だったように思えます。活動にはベテランメンバー、運営スタッフのご指導がとても大切な要素だと思います。

立派なメンバーの方々とは比べ、まだまだ私などは程遠い存在ではありますが、活動にできるだけ参加し経験を重ねつつ社会のため、そしてこの素晴らしい団体の発展のためにこれからも貢献していきたいと念じております。そして、より沢山の方々がこの活動に参加して下さることも祈ってやみません。



人と人のまんなかに。

秋の鎌倉ビーチクリーンアップに 社員と家族が参加

野崎 誠一郎 (JA 三井リース 現役)

2009年9月23日シルバーウィークの最終日、三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net)が実施した鎌倉の由比ガ浜海岸清掃にJA三井リース社員6名と家族6名が参加しました。

当日は横須賀から湯河原まで一斉に海岸清掃が行われ、地元自治会やサーファーが参加するなか、三井V-Netではボランティア会員の他、三井物産、東芝エレベータの現役社員を含め総勢44名が清掃に参加。

秋晴れの下、江ノ島や稲村ヶ崎を眺めながら楽しくゴミを集め、これからの季節も多くの人が訪れる砂浜の清掃に一役買いました。

当日参加した社員と子供達の感想と絵をご覧ください。



「想像したよりゴミが少なかったけれど、ゴミを少しでも拾えて良かった。」
荘 健太郎

「ゴミを拾ってスッキリした。貝殻も拾えて楽しかった(スママセン)。」
荘 祐紀子



晴天にも恵まれ、少し動く暑いぐらいの気温の中、我々家族も勇んで浜へ降りていきました。今日は、横須賀市から湯河原町までの海岸線150kmを、行政・地元自治会・ボランティアグループが神奈川県下一斉に清掃活動を行っているとのことで、海水浴シーズンも過ぎたはずの砂浜は、今日ばかりは、ゴミを拾う人々で大盛況。ゴミの数よりも人のほうが多い?ぐらい。

子供たちもそれなりには貢献させていただいたと思いますが、我が家に関しては波打ち際で波と戯れながらのやのんびりムードの清掃活動になってしまったような(反省)。

家族でこうした活動に参加させていただくのは初めてでしたが、和気藹々の雰囲気の中で、子供たちも楽しみながら参加させていただくことができました。

..... 荘 雄一郎

一目でわかるようなゴミ(ペットボトル・ビン・缶・お菓子の袋 etc.)が少なかったのは、今回のような活動や、それに伴う海岸利用者のマナー向上によるものと実感した。しかし、依然としてたばこの吸殻が多かったのは残念だった。

今後も機会があれば参加し、少しでも海岸の環境・景観維持に貢献したいと思う。

..... 横山 泰明

横須賀で育った私にとって海は一番の遊び場であったことから、今回の海岸清掃に参加させていただきました。当日は快晴の下、小さいお子さんから年配の方まで多くの方々が懸命に清掃活動を行っていました。昔に比べ湘南

の海岸は随分綺麗になったと、今年の夏に訪れて感じていた理由がわかりました。清掃終了後の皆さんの笑顔と集められたごみを見ての達成感は格別でした。そして帰宅後のビールも。普段とは違う有意義な休日を過ごすことができました。次回も都合をつけて参加できればと思います。

..... 滝浪 寿克

ゆいがいはまは 天気がよくなりました
あつた思っていたよりもゴミは少なく
きれいでした。またごんかしたいです。

ふか谷 元吉



深谷 元吉君の文と絵



深谷 巨喜君の絵

樹木の恵み

田島 智恵子 (登録活動会員)



先日、10数年ぶりに社宅時代の友人と昼食を共にした。彼女はご主人の最後の転勤である房総に家を構えた。銀座が大好きで還暦を迎えた今も、ガーリッシュな洋服の似合う彼女は、その時「デパートに行くのに、1時間以上

もバスや電車に乗らないと行けないのよ」と嘆いていた。その彼女が今回、自宅周辺の里山散歩の素晴らしさを喜々として語った。「毎日主人と歩くの。四季がはっきり実感できて、時期になると牛ガエルやひぐらし、虫の音がうるさいほどよ。カワセミの羽根があんなにきれいな色だとは知らなかったわ」と。これを聞いて私は、「実はね」と今参加している「みどり復活プロジェクト」の説明を始めた。彼女は、「あなたが？」と驚いた。

確かに私は娘時代、土仕事をしたことがなく、ミミズや芋虫を見るとキャーキャー騒いでいた。ただ自分でも不思議だったが、主人の転勤先の風景に山や川を見ると安心し、どこまでも続く広い空だけでは物足りなさを感じた。多摩地域で育った私は「東京の田舎っぺよ」と自嘲気味に言っていたが、多摩の山並みと多摩川はいつの間にか私の原風景になっていたのである。巡りめぐってまた古巣に戻った私は、多摩の自然と何らかの形で関わりたいと思った。ちょうど2年前に声をかけられて「みどり復活プロジェクト」にスタッフとして参加した。そこで、奥多摩に自生しているサクラをはじめトチ、ミズナラなどの樹木を保護育成するための様々な指導を受けた。指導者は林業に携わるプロであったり、地元の生活者であったり、試行錯誤しながら学習したスタッフである。山に分け入り目的の木の下にネットを張り、採取した種が発芽するポットに移植、成長した苗を育苗場に植える。夏の草取り、水やりを含めこの一連の作業を繰り返



人と人のまんなかに。

返す。草取りを通じ、育苗場の土の成分によってはびこる草が違うことも知った。今年は成長した約1,000本の苗木の嫁ぎ先が決まり嫁入りを待っている。

育苗場に行くたびに成長していく苗を見ることは楽しい。けれど私たちの手を離れた苗が、行った先々でそれを眺める方達の笑顔を想像することはもっと楽しい。そして人は里山を散歩する時、林の中を散策する時、野山をハイキングする時、怒ったり人の悪口を言ったりしながら歩いてはいないはずである。季節の移ろい、心地よい風、さわやかな空気を愛でながら歩いているはずである。草花、樹木には人の心をやさしくする妙薬が秘められているのは間違いないと思う。

インターンシップを通じて

江口 史織 (多摩大学生)
(インターンシップ研修生)



2009年8月31日、朝8時に自宅を出て電車を3本乗り換え、赤坂にある事務局へ。私はこの日から約2週間の間、インターンシップ生としてお世話になりました。

初日である31日、事務局に向かうまではとにかく緊張していて、与えていただく仕事をしっかりこなせるのだろうかと不安でいっぱいでした。しかし、事務局のみなさんはとても親切で私の質問にも快く答えてくださり、穏やかな空気に朝の私の中にあった感情がウソのように緊張はすぐにほどけていきました。今日でそんな日々も終わりなのかと思うと寂しいとさえ感じてしまいます。

インターンシップの中で、とても印象的なのが出会ったすべての方々の笑顔です。日本語サロンを見学したときに先生、留学生の方みなさん楽しそうに会話をされていたこと、エリザベスサンダースホームのボランティア活動に参加させていただいたときには、参加されている会員のみなさんが気さくに話しかけてくださったおかげで楽しく活動することができました。笑顔とは不思議なパワーをもっているもので、相手が笑って接してくれると自然と自分も笑顔になってしまいます。

私は初対面の人とコミュニケーションをとることが得意ではありませんが、少しずつでも克服できるように、そしてこれから多くあるであろう世代を超えた出会いの一つ一つを大切に、自分の笑顔でまわりの人も笑顔になれる、そんな社会人になりたいです。この2週間を通して、普段はできない貴重な経験をたくさんさせていただいたこと、事務局のみなさん始めボランティア活動に参加されている方々と出会えたことに本当にただただ感謝です。ありがとうございました。



日赤医療センターで視覚障害者体験
江口さん(右)、
中小原さん(左)

インターンシップ研修を終えて

中小原 千愛 (多摩大学生)
(インターンシップ研修生)

私は2009年8月後半から9月半ばにかけて約2週間インターンシップをさせていただきました。



最初はボランティアをやるということ以外何をする団体なのか、どのように運営しているのか等行ってみるまでは見当もつきませんでした。初めてのインターンシップということもあり、最初は不安と期待でいっぱいでした。ですが、事務局の方々はとても親切に丁寧ないろいろなことを教えて下さいました。『やっぱりボランティアをやる方々は心が優しいんだなあ』と感じたのが第一印象です。

私が活動させていただいた中で印象的だった行事は日本赤十字病院のボランティアとエリザベスサンダースホームの清掃ボランティアです。日本赤十字のボランティアでは、ボランティア会員の最上さんからボランティアの精神についてとても印象的なお話をさせていただきました。私が考えていたボランティアとは“余裕がある人々が困っている人を無償で助ける”ということでした。でも最上さんは“ボランティアとは社会的な責任であり人々は自分が持っている何かを社会に出して社会に貢献しなくてはならない”という私の考えと真逆ものでした。この話を聞いて私は、身の周りの困っている方々を見かけたら、“社会的義務”なのでですから勇気だしてボランティアをしようと思いました。

エリザベスサンダースホームでは、私は自転車のパンク修理のお手伝いをさせていただきました。ちょうど学校の文化祭と重なってしまい子供たちには会えませんでした。誰かのために働いてそのことで人に喜んでもらえると考えたとボランティアをしている時間があっという間に感じられました。ボランティアはまさに私にとってプライスレスでした。

三井ボランティアネットワーク事業団で私は貴重な体験をさせていただきました。とても感謝しています。ありがとうございました。



エリザベスサンダースホームでボランティア体験
(自転車のパンク修理)
江口さん(左)、中小原さん(右)

中国人留学生 郭鋒さんとの交流

中西 靖 (三井住友海上 OB)



何かに役立てばと、三井V-Netに登録していたところ、神戸大学修士課程に学ぶ郭鋒さんを紹介されました。

2009年2月から週1回の日本語勉強会を始めましたが、大変素直で真面目な人柄に惹かれ、指導にも力が入ってきました。

折角の機会なので、語学だけではなく、これからの中国を担う青年に、日本の歴史、文化なども学んでもらい、日本を正しく、よく理解してもらいたいと思いました。

1回で2時間余りの出会いですが、郭さんは、一人で強い意志を持って、遠く福建省から留学して来ており、それを考えると、何とか無事に卒業して欲しいと願っています。何しろ末息子と話をするようなものですから、やがて勉強だけではなく、日頃の悩みや疑問点などの相談に乗って、それに答える場にもなってきました。

興味を持ちながら、実践的に日本語が身につけられるようにと、テキストは一応用意しましたが、時にはそれから離れて、大阪弁について説明したり、希望があった日本の三英傑について、小中学生用の歴史百科事典を用いて解説したり、伝統文化である短歌、俳句、詩などの季節を詠んだ名歌を教えたりしました。日常会話の勉強では、新聞漫画の会話が面白いので、これをテキストに用います。

そのうち郭さんからは、愛好の漢詩を教えてもらうようになり、今は日本の歌と中国の詩の交換学習をしています。私は高校時代の国語の時間に学んだ程度ですから、改めて漢詩を彼の朗読で味わえるようになり、鑑賞は思いがけない喜び、楽しみの一時になっています。

お互いに出会えてよかったという思いを持つようになったこの語学ボランティアは、今は大きな楽しみです。

この間も神戸大学、ボランティア事務局とは連携をとり、何か問題が起こった時には、スムーズな解決のためのアドバイスを頂き、心強いサポートとなっていて、深く感謝しています。半年を越えた、活動の一端をお伝えしましたが、これからもよりよい支援が出来ればと願っています。

博物館が面白い

檜垣 泰司 (王子製紙 OB)

旅先などで博物館をみつけると出来るだけ都合をつけて立ち寄ることにしています。特定のものに興味があるというわけではありませんが、あれこれ眺めているのが好きなのです。

三井V-Netからの神戸市立博物館ボランティア案内に誘われて応募してみました。好きな博物館というものを、その内側からみることが出来るからという単純なる好奇心からです。数回の研修を経て、この4月から月に1~2回程度博物館に出かけるようになって半年足らず、書き記すほどのことはまだなにも無いのですがすこし感想めいたことを記してみます。

私共ボランティアは「学習支援交流員」、すこしいかめしい名前です。博物館にはたくさんの貴重な文化財が収蔵されていて、それぞれの分野で学芸員の先生方が研究や普及のための活動をしています。

専門家ではない市民が学習支援に携わるについては問題がありますが、博物館が親しみやすい場所になり、とくに小中学校生から興味を持って貰えるような場所になるために、何かお手伝い出来ないであろうかといった役割です。

神戸市立博物館は市の中心部、「旧居留地」にあります。幕末に開港、明治になってすぐ居留地がスタートしました。領事館が開かれ、西洋式の文物や生活様式が嵐のように持ち込まれて、まさに文明開化の窓口になりました。勝海舟の海軍操練所もすぐ近くにありました。

この博物館のある場所そのものが、日本の近代化の過程を物語っている歴史的な資料なのです。収蔵品のなかには、日本が初めて西洋と出会った大航海時代の文物、南蛮美術や古地図類、キリスト教を伝えたフランシスコ・ザビエルの肖像画など、そしてユニークな文様をもつ銅鐸などの考古学発掘品などがあり、夏休みになると子供たちのための企画が盛りだくさんで、大勢の親子連れが訪れます。

ボランティアの有志で集まり、歴史資料としての「旧居留地」を子供たちが楽しみながら歩いて学ぶためのマップを作ってみようということになりました。これが我々の初仕事です。同好の士同志で議論を重ねながら作業していくのは楽しいことでした。慣れてくるにつれボランティアとして出来そうなことが少しずつ見えてきます。



神戸旧居留地にあるギリシャ神殿風の神戸市立博物館

司馬遼太郎記念館との出会い

伊藤 箏子（三井住友海上 OB 夫人）



司馬遼太郎記念館にボランティアとしてお世話になって、4年になります。

司馬さんが亡くなって数年過ぎた頃、記念館ができたらしいと聞きネットで調べました。

近鉄奈良線で「八戸ノ里」、この響きはいいですね。静かな住宅街の一角に記念館がありました。入り口を入ると武蔵野の風情を思わす木立の中に、いつもそれを眺めながら原稿を書いていたという書齋が、亡くなられた当時のままでありました。エントランスの回廊を通過して玄関へ、建物に一步入るとなんと表現したらいいのでしょうか。天井から床まで壁面いっぱいの書架、ぎっしりと並んだ本、本、本、どうして本をとるのだろうか？お掃除は？など思いながらホールの映像を見ていると、ご自身の書齋や書庫にまだ6万冊余りの本があることや、その一冊一冊に目を通していることを知りました。

司馬さんの作品が人をひきつけて止まないのは、これだけの本の中にある多くの人達の声を聞き、どう生きなければならぬのかということに常に考えてこられたことなど、知識の積み重ねに裏付けられたものがあるからなのだと思います。また司馬さんはその多くの本の中の一滴の珠玉の言葉を大切に拾い上げていらっしゃることも…。充実した時間を過ごして帰宅したことを覚えています。

その後、三井V-Netのお知らせの中に「司馬遼太郎記念館のボランティア募集」の記事を見つけ早速問い合わせしたところ登録することができました。

今は月2回しか行けませんが、あの本において、活字のにおい、中でも本の中に居る多くの人たちのうごめきを想像しながら、楽しい時間を務めさせていただいております。2月の「菜の花忌」に始まり「春秋の講演会」「シーズン毎の特別展」なども開催されています。NHKで放映されている「坂の上の雲」を記念して、特別展『「坂の上の雲」が書かれた書齋風景と其の時代展』を開催しています。全国から多くのファンが訪れていますので一度足をお運びください。



司馬遼太郎記念館エントランス回廊

二色の浜ビーチクリーン活動に参加して

中谷 勤（三井造船 現役）

2009年10月3日に行われた大阪府貝塚市の二色の浜ビーチクリーン活動に同僚と参加しました。春の須磨海岸の清掃ボランティアに続く2度目の参加でした。当日、秋晴れのもと全体参加者約350人がゴミ収集とゴミを分別して種別の集計を行いました。とてもすがすがしい一日でした。



中谷さん（左）

海に関係が深い会社に勤務しており、釣りが趣味である私にとって、海岸清掃ははまりどころのボランティア活動です。よく海遊びをした青春時代と比べ、今は海そのものがとてもきれいになっており、ビーチにおいては周辺施設もよく整備されています。きれいなビーチを保てば、ゴミを捨てる人も少なくなり、さらに一層きれいになっていきます。ゴミの中には海外からの漂着物もたくさんあると聞きますが、外国においてもその相乗効果は同じことが言えると思います。

環境意識が高まっていくことはとても素晴らしいことです。私は、釣れても釣れなくても関係なしに、いつも「来た時よりも美しく」をモットーに釣り場を掃除して帰ります。意識があればマナーがしっかりできます。そして、私のように声を掛けられたのがきっかけで、自然に一步踏み出して清掃ボランティア活動に参加することになります。

当日、役員の方が終わりに、世界のビーチとビーチは海で繋がっており、このビーチをきれいにすることは世界のビーチをきれいにすることですと挨拶されました。全く同感で心に響くお話でした。子供達にきれいな海を残したい、素直な私の気持ちです。

最後に、私の活動は些細ではありますが、三井V-Net関西支部の方々にはこれからもお世話になりますのでよろしくお願いたします。そして、三井V-Net活動の更なる発展をお祈り申し上げます。





須磨海岸クリーンアップ ボランティアに参加して

崎山 登志子 (三井金属鉱業 現役)



崎山さん (右)

今回、須磨海岸のクリーンアップ活動に会社の人と二人で初めて参加させていただきました。

少し緊張しつつ集合場所に向かうと、三井V-Netの澤野井様、村上様をはじめ三井V-Netメンバーの方が集まっ

ておられ、あたたかく迎えていただき、安心できました。

15分ほどゴミの分別方法や回収したゴミのデータ収集について主催の方からの説明を伺い、10時から清掃を開始しました。

主催の方が「まず海際に行ってから海岸に戻りながらゴミを探してください」とおっしゃっていたように思うのですが、足元のゴミに目が行ってしまい、それからは夢中でゴミを探してしまっていました。

一番多かったゴミはタバコの吸殻で、これにはあまり驚かなかったのですが、釘があまりに多いので本当に驚きました。他にもガラス片や注射器もあり、夏には多くの子供が裸足で駆け回るはずの海岸に、怪我を負わせてしまうに違いないゴミが埋まっていたことがショックでした。

「だれがこんなところに捨てるんやろ」、「波で流れ着いたんかな」などと考えながらゴミ拾いを続けました。

30分程で清掃活動は終了し、拾ったゴミは細かく分類して回収表でデータ化しましたが、海岸クリーンアップ活動は、ゴミを拾うことよりもゴミの回収表で発生元をつきとめて働きかけて発生源を減らしていくことが主目的ということでした。

確かに汚してしまったものを元に戻すよりも最初から汚さないことが肝心だと目から鱗が落ちる思いでした。でも単純な私は、少しでも海岸を綺麗にできたと思えただけで満足しています。

翌週は二色の浜のクリーンアップ活動にも参加させていただきました。両日とも天候にも恵まれましたし気分爽快です。よい機会を与えていただいたと感謝しています。次回も是非参加したいと思います。

余談ですが、ゴミを探すのに慣れた目には帰る道すがら道路わきのゴミが大変目に付きました。



中国支部 (広島)

ハノーバーのホームステイ

松浦義正、順子 (日本ユニシス OB)



松浦さん (中央)、奥様 (左)、エベリンさん (右)

2009年も日独協会ハノーバー茶道会から、ホームステイの申し込みがあり、私達は快くエベリンに泊ってもらうことにしました。彼女はこれで4回目です。

「貴女のためにこの部屋はいつでも空けてありますよ」と言うので喜んですっかり知り尽くした部屋に快く泊まって下さいました。彼女はすごく親日派で、ドイツでも数名の友人とお正月を日本風スタイルで迎えるそうです。そういうこともあり、その部屋は和風に飾ってお迎えをしました。4回目ともなると、いささかどこにご招待しようかと考えましたが、未だ錦帯橋に行っていなかったのでそこに案内をしました。

幸い好天に恵まれ紅葉には少し早かったものの、日本庭園の美しさ、岩国城に陳列してある甲冑のものものしき、刀の鋭さには足を止めながら見入っておられました。その後、買い物に行ったのですが、印象に残ったのは、筆ペンを6本買っておられたことです。「サインをするんだ」ということで細いのや太いのを6本買われました。そういうプレゼントもいいな、と今後の参考にしたいと思いました。

しかし、それにしても今年のホームステイは彼女が初めてです。例年アメリカのフルブライト基金からホームステイの申し込みがありますが、悲しいかな昨年で打ち切りとなりました。やはり資金不足が原因です。昨今は同じ理由で規模も縮小し、ウエルカムパーティ等の企画もなくなり交流の回数も減り、随分寂しくなりました。

不景気になるとまっ先に削られるのが、このような交流かもしれません。文化交流は大切にしたいと思ながらも、これが現実なのかと思ひ知らされます。毎年12月にあるイギリスからのホームステイはどうなるのかと案じています。

ドイツ語は全く喋れませんが、英語を介しながらの外国の人との文化交流は楽しいものであり、勉強にもなり、刺激にもなり、更なる輪を広めることになり、実にいい



人と人のまんなかに。

ものです。あまり特別なことは要りません。日常の生活を見ていただくことが一番いいのではないのでしょうか？初めは勢いこんで準備万端整えていた私達も、6年目ともなると老いを感じ、自然体でいくことにしました。それはそれで肩をはずらず楽しい時間と空気です。皆さんも興味があればなさってみてはどうでしょうか？

平和記念公園の 清掃ボランティアに参加して

岡野 直美（三井物産 現役）

2009年10月の第3日曜日、最高の秋晴れのもと平和記念公園の清掃ボランティアに参加しました。この日は小学生のお子さんを含め、約20名の方が出席されていました。日曜日の公園は、修学旅行生をはじめ国内外から平和を祈る観光客が沢山訪れていました。

弊社は平和公園近くのビルに事務所があり窓から公園が一望できる立地です。事務所から見下ろす公園は広島市中心部なのに常に穏やかで、昼休憩には会社員らが休息に訪れ、特に春には弁当を手に短い桜の季節を楽しみます。

平和公園の中には原爆ドームや慰霊碑の他に多くの碑があります。私が通った学校では「平和学習」の課題で公園内の碑を題材にしたスライド作成や、県外から訪れた姉妹校の学生に碑めぐり案内などがありました。子供の頃から慣れ親しんだ公園で碑の名前を思い出しながら、楽しく清掃をしました。広島には被爆者が身内にいる方が多く、慰霊碑に収められている原爆死没者名簿には亡くなった被爆者の氏名が記載されています。原子爆弾の爆風で冷蔵庫の下敷きとなり亡くなった祖母や、戦後癌などで亡くなった身内の名前が書かれており、私にも特別な場所です。

この公園が美しく保たれることで、世界文化遺産に訪れた皆さんに広島という街を思い続けて頂きたい。そしてこの地で苦しみながら亡くなった方への供養の思いでゴミを拾いました。初参加で初対面の三井V-Netの皆様は直に快く受入れて下さり、三井グループを媒体としたネットワークの素晴らしさを感じました。休日の朝、公園の散歩を兼ねた身近なボランティアに、今後も時間が許す時には参加したいと思います。



岡野さん（右端）

最初のボランティアで学んだ心

岡崎 雅亮（三井生命 OB）



私が老人福祉施設で歌のボランティアを始めたのは10年前で、最初は東京のある養護老人ホームでした。私の専門はシャンソン、カンツォーネというどちらかというと馴染みの浅い歌でしたので、このよう歌を唄って皆さんに喜んでもらえるか心配でした。そのこと

を理事長にお伝えしましたら「岡崎さん、大丈夫ですよ、誠心誠意やっごらん下さい、この方たちは心の通じる人達ですから、きっと感激してくれますよ」という言葉を頂きました。

元気をもらって数日後、そのことをシャンソン仲間と話題にしておりましたら、シャンソン界では大ベテランの歌手の方が「それなら岡崎さん、私がピアノ伴奏をしてあげるわ」、私は耳を疑いました。「これは岡崎さんが本当の歌の心を学ぶ良いチャンスかも知れないから私がサポートしてあげる」。普段は派手な衣装でスポットライトを浴びている方が地味な服を着て伴奏をして下さいました。おかげさまで大成功。涙を流して見送って下さる老人も多数おられました。

理事長に感謝しつつ報告しましたら「実はこれは私の言葉ではありません。このホームには以前から歌いに来て下さる東京芸大の音楽科の教授がおられます。その方はここに来る一週間前から酒を絶って節制して来られるのです」。

私は恥ずかしくて穴があったら入りたい心境にかられました。

私の気持ちの中にはどこかに「お年寄りに歌を聞かせてあげる。慰めてあげる」という上から目線な気持ちがあったのです。定年後、福山に帰郷、引き続き、歌のボランティア活動をしておりますが、上記の体験は、それからの人生态度に大きな影響を与えてくれたように思います。

ウェルカム「広島大学病院 ほのぼのボランティア」へ

広島大学病院総務グループ
定元 修三

「広島大学病院ほのぼのボランティア」は2010年2月で活動開始してから10年になります。

これまでの歩みは決して平坦ではありませんでしたが、ボランティアの皆さんの善意と愛情そして強い責任感に基づく活動により、今では病院における快適な療養環境





作りに大きな貢献をさせていただいております。

現在、活動員は61名、活動内容は「外来案内」・「院内図書」・「絵手紙教室」・「傾聴活動」・「小児病棟仲良し広場（本の読み聞かせ・紙芝居・折り紙等）」・「小児学習支援」と多種にわたっております。また、病院のイベントのお手伝いとか、大学祭「霞祭」へも参加させていただいております。



外来案内

私はボランティアコーディネーターとして、病院とボランティアの皆さんの橋渡しの役目をしておりますが、ボランティアさんが「今日、患者さんからいろいろお世話になり、ありがとうございました」と感謝された喜びに溢れた表情で話をされる機会に多く出会いました。この仕事を担当して一番喜びを感じる時です。正に、ボランティアさんの喜びわが喜びです。

病院におけるボランティアの皆さんに期待する役割は、個々の病院によって多少異なると思いますが、当院では一人一人の患者さんに人間的な、きめ細やかなサービスを提供する役割を期待しております。この役割は奉仕の心と少しの勇気があれば必ず果たすことが出来ます。特別な資格などはありません。

皆さん、ボランティア活動を通して奉仕する喜びと、自分の持っている力や経験を生かしてみませんか。「広島大学病院ほのぼのボランティア」へのご参加をお待ちしています。

終わりにになりましたが、三井V-Netの皆様には、当院のボランティア活動にいろいろご支援・ご協力をいただいております。厚く御礼申し上げます。



院内図書室



絵手紙教室

「50回目のパソコン教室」を迎えて

黒瀬 睦（三井物産 OG）

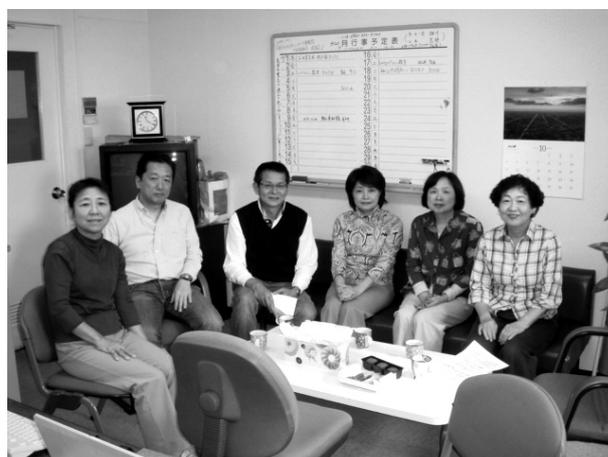
平成18年10月1日に三井V-Net中国事務所（平成21年4月1日 中国支部に変更）が開設されボランティア経験の無かった私は、上村所長、細川さんと共に教を請いながら少しずつお手伝いが出来るようになりました。

中国支部のボランティアとして毎月開催されている広島平和記念公園でのクリーンボランティアの両輪であるパソコン教室の第1回目は、平成19年6月2日に当時ユニアデックス(株)中国営業所部長の松浦さまのご尽力で中国経済連合会から中古パソコン2台無償譲受し、当事務所でシニア向け初心者パソコン教室として始まりました。

講師は松浦さんと桧垣さんにスタッフボランティアとしてお願いし、第1回目の受講者は会員の多山さんと事務局2名でしたが、月2回（第1、第3土曜日）のパソコン教室は回を重ねるうちに講師の先生は3名となり受講者は卒業された人もありますが現在6名です。

パソコン教室は講師の先生のご都合が悪いときは中止とし、また受講者が一人の出席も無くあわてて中止としたこともありました。講座はマンツーマンで実施し、時には受講者の希望で年賀状の作成や必要な文章や表の作成など柔軟に行っています。

パソコン教室での一番の楽しみは休憩時間です。お茶を戴きながらのおしゃべりも「健康」「家族」「現在の活動」などいろいろな話題で盛り上がりしています。こうして平成21年12月5日（土）に第50回目のパソコン教室を迎えることが出来ました。これからもウサギの走りではなく亀の歩みで60回、70回とパソコン教室が続きますよう願っています。



教室のメンバーと黒瀬さん（右端）

一木会例会 2009 年の行事

三井V-Netの会員ボランティアが集う一木会例会は通常奇数月の第1木曜日に開催し、必要な議事の審議、事務局報告や部会報告のあと、講演会などを行っています。また例会後の親睦会ではボランティア同士情報交換を行い、友好を深めています。2009年に実施した行事は次のとおりです。

1月8日(木)

落語：三遊亭兼好さん



*正月ということで真打の落語家三遊亭兼好さんの落語を楽しんでいただきました。

7月2日(木)

講演：「トバクマン式外国語習得法」



講師：ベンジャミン・トバクマン氏(作家)
*トバクマン氏によれば、外国語を習得するにはNativeに接するのが一番のようで、自分のまわりにNativeがいなくてもネットを検索すればその代用が見つかるとのことでした。

3月5日(木)

講演：「今日から中国の定例国会—前門の虎(経済振興)、後門の狼(政治改革)」



講師：丹藤佳紀氏(早稲田大学法学部講師)
*例会当日がちょうど北京で全人代(日本の国会に相当)が開会される日で、時宜を得た講演でありました。中国の経済状況、政治改革のポイントを語っていただきました。

9月3日(木)

講演：「舞台の裏側から見た東西文化論」



講師：大野 晃氏(神奈川県民ホール館長、専門=演出、制作、劇場管理)
*永年、舞踊やオペラの演出、舞台監督を務めてこられた大野氏に、欧州と日本の劇団、劇場の違いなどを興味深く語っていただきました。

5月7日(木)

講演：「渋沢栄一と公益思想」



講師：見城悌治氏(千葉大学准教授)
*渋沢栄一の「合本主義」や「公益事業の展開」にスポットをあてて、その人となりを紹介していただきました。

11月5日(木)

1. 部会報告(さいたま倶楽部)

世話人小塚栄二氏から活動報告がありました。

2. 講演：「●来秋に“国際ペン東京大会2010”を開催する日本ペンクラブ

●没後20年、生誕80年の作家開高健」



講師：吉澤一成氏(日本ペンクラブ事務局長)
*作家開高健氏は寿屋(サントリーの前身)の宣伝部に籍をおいていたこともあり、サントリーの佐治敬三氏とは盟友であったとのこと。サントリー広報畑を歩んでこられた吉澤講師は開高健氏との縁が深く、開高健氏没後、開高健記念館設立に尽力されましたが、その時の苦労話などをお伺いしました。

エリザベスサンダースホームでチャリティコンサート開催



三井 V-Net 湘南倶楽部では大磯のエリザベスサンダースホームにおいて、2009 年 11 月 7 日(土)第 3 回チャリティコンサートを開催しました。会場は大磯の海を眼下に見下ろす小高い丘の上にある聖ステパノ学園「海に見えるホール」です。当日は好天に恵まれ絶好のコンサート日和になりました。今回はドイツのライブチビで演奏活動をされている島田彩乃さん(ピアノ)と妹の島田玲さん(ヴァイオリン)、チェロの平泉泰興さんのトリオです。姉妹ならではの息の合った演奏は迫力が

あり観客 200 名の小さなホールはひとつになり観客を魅了し大変好評でした。演奏の曲目はクラシックでしたが、最後に園児 3 名が舞台上がり「崖の上のポニョ」の演奏にあわせ歌を歌って会場を盛り上げてくれました。コンサート終了後、三井 V-Net 木村事務局長からエリザベスサンダースホームの福代事務長へコンサートの収益とチャリティ募金箱の贈呈があり大変感謝されました。大磯の美しい海を見ながら素晴らしい演奏で楽しく優雅なひと時を過ごすことができました。

ホームページのご案内

ニュースレターは、三井 V-Net 会員からの寄稿文を中心に掲載しております。

三井 V-Net の行事や活動の詳細を中心にホームページにて掲載していますので、具体的な活動内容及び行事予定日等もぜひホームページ経由ご覧下さい。

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>

皆様からの原稿を募集中

ニュースレターは、会員皆様から頂きました原稿をベースに年 3 回(1 月、5 月、9 月頃)発行し、運営会員会社 OB 及びその関連先宛に配布しています。事務局は、このニュースレターを通じて会員間の交流と情報交換が今まで以上に広がることを期待しています。

三井 V-Net の活動に参加されたご感想、ご提案、ご意見等幅広く募集しておりますので字数 500 ~ 600 字以内と写真一葉を添付のうえ、ご送付のほどお願い申し上げます。

編集責任者：木村 堅二

三井ボランティアネットワーク事業団

本部(東京) 〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル 3 階
TEL: 03-5570-2181 FAX: 03-5570-8035

関西支部(大阪) 〒556-0011 大阪市浪速区難波中1-12-5 難波室町ビル4階
TEL: 06-4396-8680 FAX: 06-4396-8681

中国支部(広島) 〒730-0017 広島市中区鉄砲町6-7 植本ビル 5 階
TEL: 082-222-5101 FAX: 082-222-5101

ホームページアドレス <http://www.mv-net.com/>